

私の故郷「名古屋」(神奈川)八木 関三

私が高校まで過ごしたのは名古屋です。

大学時代は東京の自由が丘や都心の神楽坂に下宿をし、友人達とは出会いあり・刺戟ありの青春を謳歌していました。

昭和42年4月に日本ビクターに入社し、そのまま首都圏で仕事をするのかナーと思いきや、出身地で営業をせよとの辞令を受けて名古屋で機器営業に就きました。



上司や先輩の背中を見て自分の糧としたり、取引先の社長さんや店長さん達からは励ましやお叱りを受けたりしながらもセールスに励んだ？おかげで、名古屋商法の「粘る、粘る、またネバる」姿勢が身についたこと、また当時の菅沼委員長や高石書記長の下で労組東海支部長を経験できましたし、更に2年間夜学に通って社会保険労務士の資格を取得できた名古屋は正に私の原点とも故郷とも言えます。きれいに修復された名古屋城の写真は3年前に撮ったものです。金色の鯨鯨が光っていました。

そして、前橋も八王子にも懐かしい思い出があって「素敵な故郷」となっています。

35才のときには自ら手を上げて本社人事部に異動し、その後は人事・総務職として転勤生活が始まりました。それに伴い妻子との4人の生活の場は、名古屋から、横浜、青森、前橋、再び横浜、日野市、八王子へと移りました。

そしてビクターを退職してから10年間は八王子に住みましたが、2014年に横浜市戸塚区に終の住み処を定めて移り、今に至っています。この間に社宅と購入した自宅を合わせると住んだ家は9軒にのぼり、引っ越しは8回したことになります。

今ふり返って、「私たち家族の故郷はどこだろう・・・」と考えると、やはり長く住んでいた名古屋、前橋、そして八王子での思い出がいくつかよみがえってきます。

前橋工場では人事・総務をカバーしていましたが、グラウンドでの盆踊り大会や運動会では若い文体委員メンバーに助けられながら、大勢の社員と家族が一つに盛り上がるのを見て、私はともに働く仲間のエネルギーの高まりを感じました。後に委員長に就任された宮本信さんと知り合ったのもここ前橋でした。



苗場スキー場にて

一方、家族とは谷川岳や赤城山、尾瀬ヶ原を歩き、冬には苗場や天神平へスキーに行き、群馬県内に沢山ある温泉を楽しみました。

こうして、前橋では職場の仲間から沢山の刺激を受けましたし、家族との絆も太くなった感じがします。



谷川岳山麓で一休み

私の最終の職場であった八王子研修センターで過ごした頃や退職後の出来事もいろいろと思い浮かびますが、その話はまた別の折にでも・・・。

各地で楽しいこと・辛いことが沢山ありましたが、いずれの地も素敵な私の故郷です。

そして今は、湘南エリアや三浦半島が我が故郷になってくれています。